

「漢字ノートブック」について

ケルマン・ヨウニ

藤田 正春

日本語・日本文化研修留学生

富山大学

(ヘルシンキ経済商科大学)

外国人の日本語学習者にとって、漢字は大きな学習上の障害である。日本語の会話ができるようになった学習者でも、漢字かなまじりで書かれた文章の読みの学習でつまづき脱落していく場合が少くない。日本語学習者用の漢英辞典がいくつか出版されてはいるが、必ずしも使いやすいとは言えない。携帯用の電子辞書やパソコン用の漢字辞書の開発も進められているが、これも日本語学習者を満足させる段階には達していない。「漢字ノートブック」はパソコンの利用を前提とした漢英辞典である。JISの第二水準までの漢字について、読み・部首・画数などをもとに簡便な操作で素早く検索し、その漢字の意味や用例などを提示することができる。

On 'Kanji Notebook'

Jouni Kerman Masaharu Fujita

Helsinki School of Economics and Business Administration

Runeberginkatu 14-16, 00100 Helsinki, Finland

Toyama University

3190 Gofuku, Toyama 930, Japan

For students of the Japanese language, kanji is the big barrier to overcome. Even if a student can speak Japanese without problems, the student may have difficulties in reading kanji. Neither Kanji-English dictionaries nor electronic dictionaries have satisfied all the students yet. 'Kanji Notebook' is a computerized system for learning kanji. A student can search any kanji up to JIS 2nd Level (6,354 kanji in total) fast and easily by entering the corresponding syllables of the kanji, any element (radical), or the number of brush strokes, and the student will be provided with the meanings and usages of the kanji.

1. はじめに

近年、国内だけでなく海外でも、日本語学習者数が増加している。学習者のニーズも多様化しているが、読み書きを含めた日本語習得を目指す外国人学習者にとって、日本語学習上の大きな障害となるのは、やはり漢字の存在である。日本語の会話ができるようになった学習者でも、特に非漢字圏の日本語学習者の場合には、漢字かなまじりで書かれた文章の読みの学習でつまづき脱落していくことも少なくない。つまり、漢字がわからないと日本語の文章が読めない、文章が読めないと日本語の学習が進まない、ということになるわけである。

漢字かなまじりで書かれた文章を読むために非漢字圏の日本語学習者は漢和辞典や漢英辞典を利用するのだが、これらの辞典は概して引きにくい。その結果として、学習者が日本語の学習に飽きて最終的にやめてしまうことも珍しくない。ヘルシンキ経済商科大学でも他のヘルシンキの大学でも、2年生の約1割しか日本語の学習を継続していないというのが実情である。

これまで、日本語学習者用の漢英辞典がいくつか出版されている。これらの辞典には漢和辞典には見られない様々な工夫が施されてはいるものの、電子化された媒体ではないこともあり、使いやすさという点で限界がある。また、携帯用の電子辞書やパソコン用の漢字辞書の開発も進められているが、収録されている字数や内容の点で、未だ日本語学習者を満足させる段階には達していないと言ってよからう。

本稿では、日本語学習者が学習の目標とする漢字数について概観した上で、日本語学習者用に開発を行った「漢字ノートブック」（試作版）の概要を紹介し、最後に、同ソフトウェアの開発に関する今後の課題についてまとめる。

2. 漢字学習の数字的目標

日本語学習者が漢字をいくつ覚えればいいのかについては、学習者の発達段階、学習段階、読みの目的などに応じて、目標となる数値が異なる。国語教育や日本語教育の分野で公的に示されている数値としては、表1にあげる小学校配当漢字、常用漢字、人名用漢字、表2にあげる日本語能力試験の級別目標漢字数があげられる。このうち、表1に掲げるものについては、一覧表の形でそれぞれ具体的な漢字が示されているが、表2については、どの級でどういう漢字を、という指定があるわけではない。

表1 国語教育における漢字学習目標値

小学校配当漢字	1,006字	常用漢字	1,945字
〔内訳〕		(小学校配当漢字を含む)	
第1学年	80字	人名用漢字	284字
第2学年	160字		
第3学年	200字	計	2,229字
第4学年	200字		
第5学年	185字		
第6学年	181字		

表2 日本語能力試験の認定基準における漢字数

級	漢字数	備考
1	2,000字程度	日本語を 900時間程度学習したレベル
2	1,000字程度	“ 600時間程度 “
3	300字程度	“ 300時間程度 “
4	100字程度	“ 150時間程度 “

さらに、コンピュータやワープロ用の基準として、J I S漢字 6,353字（第1水準 2,965字、第2水準 3,388字）が設定されている。

一方、日本語学習者用に作成された主な漢字辞書に収録されている漢字数は、表3のとおりである。いずれも、常用漢字（または当用漢字）を含む漢字辞典となっている。

表3 日本語学習者用漢字辞書の漢字数

ネルソン編『最新漢英辞典』	5,445字
文化庁編『外国人のための漢字辞典』	2,215字
春遍雀来編『新漢英字典』	3,587字

また、国立国語研究所による新聞や雑誌の調査では、表4に示すように、紙面の総延べ度数に対して、上位の200字で50%強、同500字で約75%、同1,000字で90%強の累積使用率となっている。

以上を総合的に勘案して、「漢字ノートブック」では、小学校配当漢字を段階的に学習しながら、常用漢字を一つの最終的な到達目標として学習でき、そして、J I S漢字を参照できるような辞書の開発を目指すこととしている。

表4 新聞と雑誌における漢字の使用量

	新聞	雑誌		新聞	雑誌
上位の 10字	10.6%	8.8%	全体の 80%	512字	638字
50	27.7	25.5	85	633	777
100	40.2	37.1	90	800	992
200	56.1	52.0	95	1,081	1,358
500	79.4	74.5	96	1,168	1,479
1,000	93.9	90.0	97	1,277	1,617
1,500	98.4	96.0	98	1,426	1,832
2,000	99.6	98.6	99	1,659	2,157
2,500	99.9	99.5	100	3,213	3,328
3,000	99.9	99.9			

林大 (1982) より

3. 「漢字ノートブック」(試作版)の概要

1) ソフトウェア開発の目的

「漢字ノートブック」の目的は、漢字の学習を楽しいものとし、学習効率を高めることにある。この目的を達成するには、従来の漢英辞典と比べて、より容易に、より速く漢字を引けるようにする必要がある。そこで、このソフトウェアでは、例えば、語例や文例の中にわからない漢字があり、その漢字の読みや意味の情報を引き出したいというような場合に、コンピュータの操作として、ただマウスでその漢字をクリックすればいいようにしてある。

漢字ノートブック(試作版)は、1991年にヘルシンキ経済商科大学で導入された。この試行に参加した学生は、コンピュータに関する知識がなくても、比較的速くその使い方を覚え、全員が「今までの辞書より速く漢字が引けておもしろい」と、これを歓迎した。「本は早く飽きるが、コンピュータの勉強には夢中になってしまう。」という学生も多くいた。問題点としては、「自分用のコンピュータがまだないので、このシステムをいつでも利用できるというわけではない。」という声が多く聞かれた。

2) システム環境

Macintosh コンピュータ

KanjiTalk 日本語システム・ソフトウェア

ハードディスクスペース約6メガバイト

HyperCard 2.0 以上

3) ソフトウェアの概要

「漢字ノートブック」(試作版)では、常用漢字と人名用漢字を含む2,727字を対象として、漢字学習用ソフトウェアのプロトタイプを作成を行った。試作版では、図1に示すように、各漢字について、ローマ字表記による漢字の読み、英訳による漢字の意味、その漢字を含む語例や文例が表示される。

図1 漢字ノートブック(試作版)の表示例

人	JIN, NIN, hito	
	* human being, man, person	
人	ひと	man, person; someone
人間	にんげん	man, person; human being
人名	じんめい	person's name
	(略)	
人種差別	じんしゅさべつ	racial discrimination
人的資源	じんてきしげん	human resources
	(略)	
あの人は人気があります。		He is popular.
どんな人柄の方ですか。		What is he like?
	(略)	

4. 今後の課題

完成版を目指した「漢字ノートブック」の開発に関する今後の課題としては、(1)見出し漢字数の拡充、(2)機能の追加、(3)学習者のニーズに応じたバージョンの作成、(4)構成要素の再検討、といったことがあげられる。

まず第一に、見出し漢字数については、第2節で述べたように、JIS漢字まで拡充する必要がある。現在、JISの第二水準までを含む漢字を目標に作業を進めている。最終的な数字としては、JIS漢字 6,353字に「メ(しめ)」を1字加えた、6,354字を予定している。

次に、機能の追加に関しては、漢字群の作成機能とクイズ機能を考えている。漢字群の作成機能としては、現在、小学校の第何学年で学習する漢字か、常用漢字であるかどうか、というような情報の付与によって、それぞれの漢字群を指定できるようになっている。今後は、色に関する漢字群、身体語彙を表す漢字群といったような形で、学習者が自分の興味・関心や学習目的にあわせて自由に情報づけを行うことによって漢字群を追加し、それらの検索や抽出を行うことができるようにする予定である。

また、クイズ機能では、漢字の読み・意味・字形などの学習が定着しているかどうかを確認できるように、表示部分の一部を一時的に消すことができるようにしようと考えている。これによって、学習者は漢字学習の自己診断テストを随時行うことができることとなる。

第三に、学習者のニーズに応じたバージョンの作成ということが考えられる。例えば、最近急増している年少の日本語学習者のための辞書を例として考えてみよう。周知のように、漢字の学習は語彙の学習と不即不離の関係にある。成人の日本語学習者を念頭に置いて辞書を作成した場合、見出し漢字の語例や文例の中に、年少者にとって難解な語彙や年少者の生活に関係の薄い語彙が多く含まれることが懸念される。というわけで、年少者用の辞書には、年少者にとって理解しやすい語彙や必要度の高い語彙を選定して語例や文例に盛り込む必要がある、ということである。

最後に、構成要素の再検討については、前述のように、CAMELシステムやCASTEL/Jを参考にしながら、より良い構成要素の抽出を行い、それを検索システムに反映したいと思っている。また、漢和辞典の中にも、例えば長澤規矩也他(1986)のように、新しい構成要素を積極的に採用しているものもあるので、これらの辞典も視野に入れて検討を進めたいと考えている。

〔参考文献〕

- 1) 長澤規矩也他編『新明解漢和辞典(第三版)』三省堂, 1986³
- 2) ネルソン, A.N. 編『最新漢英辞典』タトル, 1966²
- 3) 橋本芳一編『福沢基金共同研究 科学技術日本語教育のための調査研究報告書(62年度)』慶応義塾大学, 1988
- 4) 林大監修『図説日本語』(角川小辞典9)角川書店, 1982
- 5) 春遍雀来編『新漢英字典』研究社, 1990
- 6) 文化庁編『外国人のための漢字辞典(第二版)』大蔵省印刷局, 1973²
- 7) 増田忠編『直感ワープロ漢字辞典』日本経済新聞社, 1993²
- 8) 水谷静夫編『文字・表記と語構成』(朝倉日本語新講座1)朝倉書店, 1987